

Psychonomic Society 参加報告書

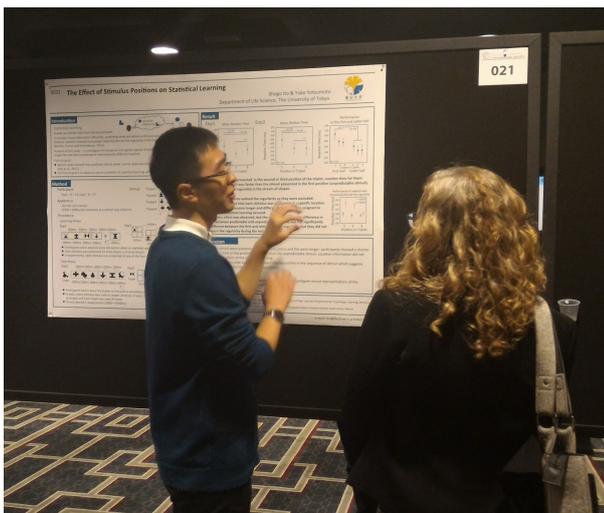
東京大学大学院 総合文化研究科広域科学専攻 生命環境科学系
四本研究室 修士2年 伊藤匠吾

「修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受け、2018年11月14日から11月22日にかけてアメリカ・ニューオーリンズで行われた Psychonomic Society 59th Annual Meeting に参加しました。

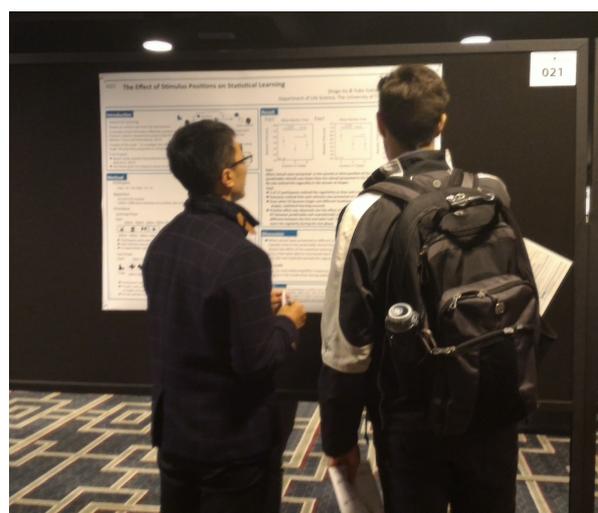
私は統計学習の中でも時間的規則性を無意識に獲得する学習において、刺激の空間情報が学習効果にどのような影響を与えるのかについて発表しました。90分間でおおよそ10人に発表しましたが、統計学習を専門に研究していらっしゃる方にもいらしていただき、次のステップとして行うべき実験について議論するなど、有意義な時間を過ごすことができました。また、多分野にわたる研究者が集う学会だったため、専門外の方に対して自分の研究内容をどのように噛み砕けばうまく伝わるのかを修養する場としてもいい経験となりました。

ポスター発表以外の時間はトークセッションに参加しました。統計学習についての発表はもちろん、ワーキングメモリや注意のセッションで最新の知見に触れることができ、周辺分野の知見を深めることができました。

ニューオーリンズはジャズが有名なようで、学会後にはレストランでジャズバンドの生演奏を楽しむことができました。また、すれ違う人々から頻りに話しかけられ、地元の方々の気さくな人柄に触れることもできました。



発表の様子 1



発表の様子 2